山口県における方言アクセントの世代差
―３拍名詞アクセントを中心に―

The Generation Differences of the Pitch Patterns of the Nouns in the Yamaguchi Prefecture Dialect:
Focusing on the pitch patterns of three-mora nouns

池　田　史　子
Fumiko　IKEDA

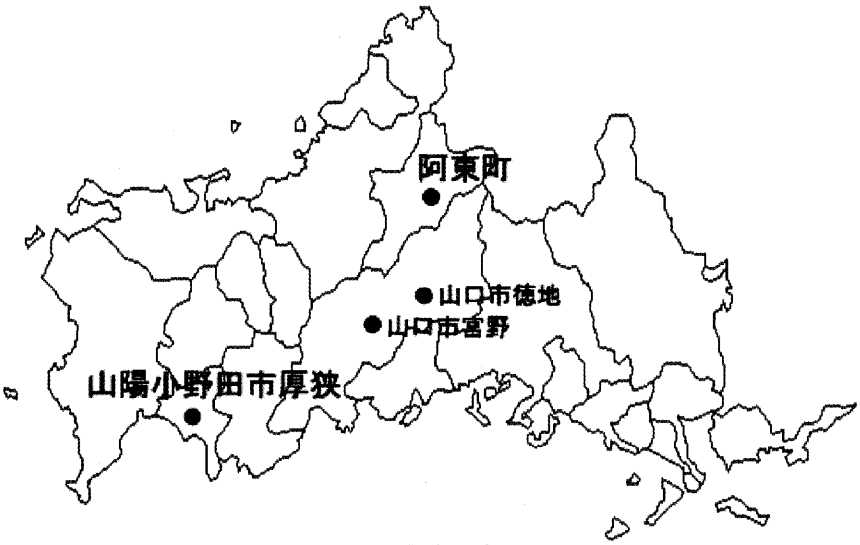
１．はじめに

山口県方言の伝統的な名詞アクセントの型は，高音拍部をＨ，低音拍部をＬで表し，いわゆる「アクセントの類別語彙」（注１）別にまとめると次のようになる。（注２）名詞に助詞「が」を接続した形で示す。

１拍名詞
　第１・２類LH／第３類HL
２拍名詞
　第１類LHH／第２・３類LHL／第４・５類HLL
３拍名詞
　第２・４類LHHL／第３・５類LHLL／第７類HLLL／第６・１類LHHH

語によっては，その所属類別語彙がとるべき型に発音されない個別の例外となる語もあるが，山口市徳地及び山口市宮野での具体的用例については池田（2006）に示した。

今回は，阿武郡阿東町及び山陽小野田市厚狭（図）での臨地調査を行い，その録音結果をもとにして世代差とその変化の方向について考察する。（注３）



図．調査地点

阿武郡阿東町は，山口県の北東部に位置し，県庁所在地の山口市とはJR山口線で結ばれている。JR篠目駅，長門峡駅，渡川駅，三谷駅，名草駅，地福駅，鍋倉駅，徳佐駅，船平山駅と山口線が町を貫き，島根県へと延びている。人口約8,400人で農業を中心とした町である。

山陽小野田市は，平成17年（2005年）３月に小野田市と厚狭郡山陽町が合併して成立した，山口県の南西部に位置する人口約68,000人の市である。平成11年（1999年）には山陽新幹線厚狭駅が開設され，こだまも停車するようになった。今回の調査地点は，JR厚狭駅周辺である。

ここで，山口県の伝統的な高年齢層のアクセント体系と，現在の共通語（主に東京方言）（注４）の名詞アクセント体系とを比較しておくと，その相違点は個別的な例外を除いては，３拍名詞の第３・５類にあることがわかる。共通語の３拍名詞は，第３・５・７類がHLLLと統合しているので，

山口方言の３拍名詞アクセント―第３・５類　LHLL

共通語の３拍名詞アクセント　―第３・５類　HLLL

というのが，山口方言と共通語の相違点である。

２．山口県における３拍名詞アクセントの現状

高年齢層から若年齢層に亘る３拍名詞のアクセント型の変化には，語ごとに変化の方向に違いが見られ，その変化に遅速が見られる。以下では類別語彙ごとに分けて観察することにする。山口方言のアクセントと共通語のアクセントとともに揃って同じ型で，その語が本来発音されるのにふさわしい所属語類と同じ型に発音される場合は，今回の考察から省いた。

２．１　第３・５類のアクセント変化

第３・５類は，山口県の伝統的な高年齢層のアクセント型と，現在の共通語のアクセント型との相違点が最も大きい語類である。山口アクセントの伝統的アクセント型LHLLが，共通語の直接的影響を受けてHLLLと変化したものに次のような語がある。

山口LHLL→共通語HLLL	阿武郡阿東町	山陽小野田市厚狭
1930年代生まれから変化する語	眼，栄螺	眼
1940年代生まれから変化する語	胡瓜	二十歳
1950年代生まれから変化する語	二十歳，朝日，命，姿，錦 火箸，鰈	胡瓜，錦，涙
1960年代生まれから変化する語	涙	栄螺，朝日，命，姿
1980年代生まれから変化する語		

阿武郡阿東町の岡さん（1940生まれ）の場合，「栄螺」のアクセントに揺れがみられ，発音を繰り返し試みるごとにLHLLとHLLLで悩まれるという場面があったが，LHLLという伝統的アクセント型での場合，明瞭に[sada.ega]という方言的音声になるのに対して，HLLLという共通語型のアクセントの場合は[saza.ega]と共通語的発音をされていたことは興味深い。（注５）アクセント型が伝統形と新しく習得した共通語形と切り替わるのに対応して，その音声も移行していたのである。

「鰈」は，阿東町では比較的早めに共通語化が進んだ語であるが，山陽小野田市厚狭では1980年代生においてもHLLLとなることはなかった。

共通語の第３・５類のアクセント型は基本的にはHLLLであるが，個別の例外あるいは新しく共通語において変化した形としてLHHHと発音される語彙がある。そのアクセント型への変化を見てみよう。

山口LHLL・LHHL → 共通語LHHH	阿武郡阿東町	山陽小野田市厚狭
1930年代生まれから変化する語		
1940年代生まれから変化する語		
1950年代生まれから変化する語	黄金，小麦，岬	
1960年代生まれから変化する語		
1980年代生まれから変化する語		黄金，小麦，岬

山口県における「小麦」のアクセント型は，伝統的な型LHLLから，阿東町の場合1940年代生まれから，山陽小野田市厚狭の場合1930～1940年代生まれで，LHHLという型を経て，それより若い世代において共通語での新しい型LHHHと同じになった。共通語でも「小麦」は，LHLLからLHHHという変化の道筋をたどった。

この他に，個別の例外として，山口LHLLが共通語LHHLの影響を受けた語彙として「力」があった。山陽小野田市では1930年代生まれからの今回の全ての発話者がLHHLと発音されたが，阿東町でのLHHLは1980生まれのみであった。阿東町では「力」はLHLLである。この「力」に関しては，広戸（1961）調査の当該地点でも既に相違があったようである。

共通語において，「五つ，心」は第３・５類の例外としてLHLLに発音されるので，山口アクセントと同じとなっている。

２．２　第２・４類のアクセント変化

第２・４類は，山口の伝統的な高年齢層のアクセント型と共通語のアクセント型がともにLHHLとなり同じであるが，個別に見ると相違点もあるようである。山口アクセントでLHHLまたはLHLLであったが，共通語で例外としてLHHHに発音される語の，その山口方言でのLHHHへの変化を確認する。

山口LHLL・LHHL → 共通語LHHH	阿武郡阿東町	山陽小野田市厚狭
1930年代生まれから変化する語		戦
1940年代生まれから変化する語	蜥蜴	
1950年代生まれから変化する語	戦	
1960年代生まれから変化する語	鶉	蜥蜴
1980年代生まれから変化する語	釣瓶，堺	鶉

「戦」のLHHHは共通語でも変化を遂げた新しいアクセント型である。

ところで，阿東町において1950年代生まれから「扇」に，山陽小野田市においても1960年代生まれから「小豆，扇，鏡」にLHHHがあらわれるが，共通語でのこれらの語はこの資料の段階では未だLHHLである（ＮＨＫのみLHHHもあり）。LHHHに変化する語につられて先取りの変化を起こしたようである。変化の道筋の傾向として，HLLL→LHLL→LHHL→LHHHがありそうである。

２．３　第７類のアクセント変化

第７類は，基本的に山口の伝統的な高年齢層のアクセント型と共通語のアクセント型がともにHLLLとなり同じであるが，２語の例外がある。

山口LHHL→共通語LHHH	阿武郡阿東町	山陽小野田市厚狭
1930年代生まれから変化する語	苺	
1940年代生まれから変化する語		苺
1950年代生まれから変化する語		
1960年代生まれから変化する語		
1980年代生まれから変化する語	後ろ	

「苺」は，広戸調査のころの古態がLHHHであるのに，中年齢層にLHHLが出現し，若年齢層で再び共通語と同じ型のLHHHとなっている。２地点とも同様である。「後ろ」のLHHHは阿東町の1980年代生まれのうち１名だけであるし，山陽小野田市では全く現れなかった。「後ろ」は，第７類では珍しく山口アクセントと共通語アクセントの型が違い，そして山口アクセントを保持している例と言えよう。

第７類には，山口アクセントと共通語において，揃ってともにLHHHとなる語がある。「鯨，薬，盥」である。「盥」は日常生活で見かけることもなくなり使用率が低いことも理由として考えられる。今回の調査では，調査カードに写真を添えた語のひとつであった。

２．４　第６・１類のアクセント変化

第６・１類は，山口の伝統的な高年齢層のアクセント型と共通語のアクセント型がともにLHHHとなり同じであるが，個別に見るとわずかながら相違点があった。それがLHHHへと変化していく語を確認する。

山口LHLL・LHHL →　共通語LHHH	阿武郡阿東町	山陽小野田市厚狭
1930年代生まれから変化する語	錨	庇，錨
1940年代生まれから変化する語		
1950年代生まれから変化する語		
1960年代生まれから変化する語		
1980年代生まれから変化する語	庇	

「庇」がLHHH型に変化するのは，２地点で年代の差が大きい語である。

３．まとめ

山口市内における３拍名詞アクセントの共通語化について扱った先行研究はいくつかあるが（注６），今回の調査では山口市から少し離れた場所での臨地調査を行った。変化の方向としては同じであったが，今回はそれぞれの調査年代の差から，先行研究よりも共通語の方向へ一歩進んだ結果であった。

山口方言における３拍名詞の共通語化は，変化の時期が早かった一部の語を除いて，おおよそ1950年代生まれから始まり,1960年代生まれで急に著しくなっていることがわかった。1980年代生まれの大学生あたりでは，ほとんどの語が共通語と同じアクセント型となり，アクセント体系も同じになっている。

（注１）　金田一春彦（1974）『国語アクセントの史的研究　原理と方法』塙書房
金田一春彦・和田實（1980）「国語アクセントの類別語彙表」国語学会編『国語学大辞典』東京堂出版

（注２）　池田史子（2006）「山口県徳地方言のアクセント―名詞のアクセント体系と複合名詞のアクセント規則について―」『山口県立大学国際文化学部紀要』12，pp.11-21の山口市徳地や，山口市宮野での高年齢層を対象とした調査結果による。ここでは，３拍名詞に助詞「が」を接続した形を示したが，単独形でも，助詞「が」接続形でも高音拍部の位置は変化しない。
広戸惇（1961）「山口県におけるアクセントの分布―石見との関連において―」『山陰文化研究所紀要』1，pp.40-52には，昭和35年（1960）当時の60歳前後の方の調査結果があり参考になる。

（注３）　阿武郡阿東町での臨地調査は，2006年２月末～３月初めに行った。調査結果の一部は，2006年７月の「阿東町公開講座」に於いて報告済みである。山陽小野田市厚狭での臨地調査は，2006年11月に行った。

（注４）　共通語（主に東京方言）のアクセントについては，次の２点を利用した。
NHK放送文化研究所編（1998）『NHK発音アクセント辞典　新版』日本放送出版協会
金田一春彦監修・秋永一枝編（2001）『新明解日本語アクセント辞典』三省堂

（注５）　杉藤美代子（1996）『日本語の音』「2-1ザ行音・ダ行音・ラ行音の混同地域の全国的分布と混同の実態」p.64，和泉書院において，山口県は[z]音から[d]音への混同の傾向が最も多い県であるというアンケート結果がある。

（注６）　山下知子（1977）「山口市方言アクセントの一考察―名詞アクセントをめぐって―」『山口女子大研究報告　第１部人文・社会科学』２，pp.77-85
添田建治郎（1980）「山口市内の方言アクセント―「共通語化」の側面を中心に―（二）」『山口国文』3，pp.38-51等がある。

謝辞

このたびの調査にあたり，阿部志乃さん，岡トモコさん，小田真菜美さん，木村武志さん，斉藤正登さん，柴崎春佳さん，柴崎真佐江さん，藤山義誉さん（以上，阿武郡阿東町），梅本秀一郎さん，笹尾新太郎さん，佐々木雅史さん，清水紗都美さん，田村洋さん，千々松和男さん（以上，山陽小野田市厚狭）に話者としてご協力いただきました。

深謝申し上げます。

（日本語学）

The Generation Differences of the Pitch Patterns of the Nouns in the Yamaguchi Prefecture Dialect: Focusing on the pitch patterns of three-mora nouns

Fumiko IKEDA
(Japanese linguistics)

This research was conducted with a focus on different pitch patterns of three-mora nouns in the Yamaguchi Prefecture dialect seen in different generations. The data was mainly collected in Ato Town in Abu County and in the Asa area of Sanyo-Onoda City, in addition to data previously collected in Yamaguchi-City.

It was found that standardization of pitch patterns began among those who were born in the 1950s, and that from those born in the 1960s, the standardization of pitch patterns became remarkable. Furthermore, no differences were found in the advance degree of standardization of pitch patterns of three-mora nouns in each investigation point.